論文表題　ＭＳゴシック14ポイント、中央よせ

― 副題　ＭＳゴ・12p中央よせ ―

現　代　太　郎（氏名はＭＳゴ・12ｐ・右寄せ・字間一字あけ）

Abstract

要旨は本文が日本語の場合は英語（240語まで）。本文が英語の場合は日本語（400字まで）とする。大きさは9ポイントを使用。英語のフォントはTimes New Roman、日本語はMS明朝に設定すること。母国語以外の言語を使用した場合は言語表現の確認が可能な者にチェックしてもらうこと。

キーワード……ＭＳゴ・9ｐ　本文で使用した言語で3～5語記入。

1　章見出し　MSゴシック　11ｐ

Xxxxxxxxx Xxxxxxxxx xxxxx xx xxxxx Xxxxx xxx, xxx, xxxxxx xxx xxxxxx. Xxxxxxxxx Xxxxxxxxx xxxxx xx xxxxx Xxxxx xxx, xxx, xxxxxx xxx xxxxxx. Xxxxxxxxx Xxxxxxxxx。

2　節見出し　MSゴシック　9ｐ

Xxxxxxxxx Xxxxxxxxx xxxxx xx xxxxx Xxxxx xxx, xxx, xxxxxx xxx xxxxxx. Xxxxxxxxx Xxxxxxxxx xxxxx xx xxxxx Xxxxx xxx, xxx, xxxxxx xxx xxxxxx. Xxxxxxxxx Xxxxxxxxx。

3　項見出し　MSゴシック　9ｐ

Xxxxxxxxx Xxxxxxxxx xxxxx xx xxxxx Xxxxx xxx, xxx, xxxxxx xxx xxxxxx. Xxxxxxxxx Xxxxxxxxx xxxxx xx xxxxx Xxxxx xxx, xxx, xxxxxx xxx xxxxxx. Xxxxxxxxx Xxxxxxxxx。

紀要本文は日本語の場合MS明朝体で9ポイントを使用。英語の場合はTimes New Romanを使用する。本文の数字はTimes New Romanで半角。用紙はB5を使用し、1行の文字数は42字、1ページの行数は34行で作成。表題、氏名、要旨、キーワード、本文、図表、注を含めて分量は18ページまでとする。注は最後にまとめてつけること[[1]](#endnote-2)。太字（bold）は使用しないこと（印刷した状態では判読できない。論文表題や章題・キーワード、本文の強調などは、MSゴシック書体を使用すること）。

図・表は、After the mentionの原則（図・表を掲げた後に説明するのではなく、あらかじめ言及した後に図・表があらわれるように設定すること）に従って各自で挿入すること。それぞれの図・表には通し番号と表題をつけること。また、単位、出所、執筆者による作成であればその趣旨を忘れずに明記すること（図・表がすべて筆者作成の場合、本文や注でその旨を書いておくこと）。図・表と本文の間は、必ず上下に1行空けること。

表1．現代社会文化研究科の専攻・大講座・教育研究分野

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 専　　　攻 | 大　講　座 | 教育研究分野 |
| 人間形成文化論 | 人間文化論 | 生活環境論 | 人格形成論 |
| 社会統合論 | 教育システム論 | 社会制御論 |
| 地域社会形成論 | 地域文化論 | 地域文化形成論 | 日本文化形成論 |
| 地域社会論 | 地域社会形成論 | 地域社会交流論 |
| 国際社会形成論 | 国際文化論 | 比較組織論 | 比較文化論 |
| 国際社会論 | 比較社会システム論 | 国際経済システム論 |

（出所）『新潟大学大学院現代社会文化研究科学生便覧』85頁。

ページ左右の余白は、21mmです。図・表がはみ出さないように注意して下さい[[2]](#endnote-3)。現代社会文化研究科[[3]](#endnote-4)。

＜注＞詳細は各号最終頁に掲載されている補足の注および引用文献の表記を参照すること

1. 脚注は文末脚注を選択し、自動脚注番号で1,2,3,4‥を選択して下さい [↑](#endnote-ref-2)
2. 紀要はほぼ皆さんが作成した原稿のイメージ通りに印刷されます。左右の余白に注意して、図・表を挿入して下さい。 [↑](#endnote-ref-3)
3. 注を挿入するときには句読点の前に入れるようにして下さい。注の番号にはあとで編集委員会が右にかっこを入れます。　例　4）

＜引用文献＞　引用文献一覧は、括弧方式の注を採用した人のみ掲載する。

著者姓、名、（出版年）『書籍タイトル』、出版地（省略してもよい）、出版者

著者姓、名、（出版年）「論文タイトル」『雑誌名』、巻、号、頁

欧文論文は“　”でくくり、書名や雑誌名は斜体（イタリック）にする。

主指導教員（○○○○教授）、副指導教員（○○○○教授・○○○○教授） [↑](#endnote-ref-4)